

(サービス目標と維持管理基準について)

1. 維持管理の現状等について

(1)用語の定義

・「維持」「修繕」などの定義を整理すべき。

(2)維持管理の現状

2. サービス目標の設定について

(1)目的

・利用者だけではなく、納税者への説明責任を果たすべき。

(2)サービス目標の設定

- ・定常的なものと緊急的(災害等)なものに対応を分けるべきではないか。
- ・短期的な対応である「維持」と、中長期的な対応である「修繕」が混在しており、また、災害時の緊急的な対応と定常的な対応が混在しているため、これらが区別できるよう整理すべき。
- ・「安全・快適」が維持、「広域的・中枢的な交通機能」が修繕に偏っていて、バランスが悪い。
- ・目的とする道路の機能を整理して、それを達成するためにはどのような基準とすべきかというロジックを整理することが必要。
- ・具体化したサービス目標を達成するために、維持管理作業がどうあるべきかの分析を踏まえて、作業基準を整理すること。
- ・事故や災害を「防ぐ」「備える」と、機能・信頼性を「維持する」とではサービス目標の考え方が異なる。
- ・水準はB/Cで決定するのが理想であるが、誰が受益者なのかの整理が必要。
- ・一つの作業が複数の事象に関連する場合の評価が必要で、単純な作業レベルではなく組み合わせも考えるべき。
- ・ネットワークの特性に応じ整理が必要。

3. 維持管理基準について

(1)維持管理基準について

・巡回の基準の検討にあたって、落下物の内訳や事故との関係など、構造的な分析をしてはどうか。

(2)維持管理基準の運用

- ・統一的な基準を設定する一方で、必要などころにはコストをかけるなど、弾力的な運用が重要。
- ・サービスを提供することではなく、基準を守ることが目的にならないように留意。

第2回検討会までの議論の整理

4. 今後の維持管理のあり方

- ・意見・要望等の水準が是か非か、コストを更にかけて減らす必要が有るのか、相対的にどう評価するかの整理が必要。
- ・作業水準は、高めるとコストがかかり、下げると不具合が発生。絶対的な評価は難しく、妥当か否かはマネジメントサイクルの中で見直すのが良い。

(道路構造物の修繕及び更新について)

○維持修繕・更新費の推計

- ・橋梁単位の総合判定(C, E)だけでなく、判定結果が示す損傷程度、修繕規模、修繕方法等の判断するための材料を整理すべき。
- ・損傷時には、下部工、主桁、床版等の架け替えが必要な部材とその他の交換可能な部材は分類して考えるべき。
- ・劣化モデルの改善、適用の要否等、更なるバージョンアップが必要。

○予防保全への取り組み

- ・予防保全のために短期的に必要な費用と、ライフサイクルコストの縮減効果等について、解りやすく説明することが必要。
- ・予防保全の効果を具体的に明示して、国が率先して取り組むべき。
- ・データが不十分だときちとした分析が出来ず、自治体間で差が出ると困るのは住民。作業を行う支援が無ければ、せっかくシステムを作っても使ってもらえない可能性がある。
- ・データベースにデータを蓄積し、精度の高い分析が可能となるよう、自治体の協力が得られるような支援体制の確保が必要。
- ・個別の橋梁ごとではなく、ネットワークを考えた維持修繕計画を考えることが必要。
- ・老朽化が進んでいる橋梁が多い中で、現況によっては「更新しない」という選択肢もあるのでは。
- ・点検基準が自治体ごとに複数存在するようだが、基準は全国で統一されるべきではないか。
- ・修繕や更新のコストに加えて、管理体制や技術力についての議論が重要。